

点描ぐんま経済

日銀支店長 見聞録

46

今回の見出しは、しばらく前にはやった刑事ドラマでの有名なフレーズ。私は結構ドラマ好きである。

長年ドラマを見てみると、「変わるもの」と「変わらないもの」があるように思う。「変わるもの」と言えば、最近では最先端技術が多く出てくる。一方で、人間同士の喜怒哀楽は「変わらないもの」ではないか。

さて、なぜこのような書き出しになったかと言えば、しばらく前に、場所を移転された総合病院と、県の産業支援機構と産業技術セ

事件は現場で起きている

ンターを訪問させていただいたからである。まず、移転された総合病院では、最先端技術をいかに導入さ

不変と変化 大事に

れていた。「サイバーナイフ」というがん治療のための放射線機器を見せていただいた。群馬県内では初導入で、がんの患部に立体的に放射線を当てることができるとのこと。

しかも、呼吸で患部が多少動いても自動追尾してくれるらしい。素晴らしい技術だ。

ただ、この病院が素晴らしいのはそれだけではない。24時間365日の診療体制を整備し、ドクターヘリ、ドクターカーも装備。大規模災害にも備えている。また、患者の不安や悩みを耳を傾けるため、診療科をまたがる「患者支援センター」を

新設したほか、「アートイン・ホスピタル」も導入。患者の納得をしっかりと得るといって、「インフォームド・コンセント」は昔から言われていたこと、すなわち「昔から変わらないもの」だが、それを大事にされていた。

次は、県の産業支援機構と産業技術センター。産業支援機構は、昨年同センター内に移転し、事業承継、M&A、事業再生に関する相談、調整、研修などを行

これまでも県が経営支援と技術支援をしてきたというのは「変わらないもの」だと思いが、この両者をワンストップで受け付けられるというのは「変わるもの」ではないか。

こうした見学をさせていたいただいて、感じたことは、「変わるもの」(最先端技術)をしっかりと取り入れて、しかも「変わらないもの」を大事にする。さまざまなことに共通することだと思いが、本当に大事なことだと思う。皆さんは、何を大事にされていますか？

岡山和裕 (おかやま・かずひろ) 1969年7月生まれ。兵庫県出身。東京大法学部卒。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを



岡山和裕 (おかやま・かずひろ) 1969年7月生まれ。兵庫県出身。東京大法学部卒。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを